



JX (NELEUS) BC VERSION J

B . C . 取扱説明書

まえがき

お買い上げいただきありがとうございます。
本製品は、レジャーダイビングにおける使用を前提とした潜水器材です。
本書はレジャーダイビング用浮力調整機器（B . C .）NELEUS をご使用いただくための取扱説明書です。

本書は、国際的に認知されている潜水指導団体の講習を受けCカードを取得した方はもちろん、講習等でご使用になられる方にも、B . C . の正しい使用方法や技術を習得する上でお役に立つものと考えております。

本書をよくお読みになり、内容を十分に理解された上で実際にご使用くださいますようお願いいたします。またダイビング前にこの説明書をご覧になれるよう、お出かけの際はいつもお持ちいただく事をお勧めいたします。

本書は紛失なされぬよう大切に保管ください。紛失された際は、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱店におたずねください。後日、再交付いたします。

B . C . NELEUS は、レジャーダイビング用レギュレーターとの組み合わせにより使用が可能となるダイビング用品です。したがって、正しいレギュレーターの取り扱いの知識が必要となります。ダイビングを実際にされる際は、この取扱説明書とともに、ご使用となるレギュレーターの取扱説明書をご利用ください。またレギュレーターの機種によっては、本製品との組み合わせによる使用に適さない事も考えられます。ピーイズム社製レギュレーターとの組み合わせによるご使用をお勧めいたします。

B . C . の設計内容に関する不断の研究・改良の結果、この取扱説明書の内容がお買い上げの製品と詳細において異なる場合があります。

お買い上げの製品またはこの取扱説明書の内容につきましてのご質問は、下記までご遠慮なくお問い合わせください。

〒103-0004
東京都中央区東日本橋3-6-18 NFビル5F
株式会社ピーイズム
電話 (03)5640-8126 FAX (03)5640-8131

目次

まえがき	1
必ずお読みください	2
各部のなまえ	3
主な機能と特徴	5
組み立てる	5
タンクにセットする前に	6
タンクへのセッティング	7
B . C . ホースの接続	7
給・排気基本操作と作動点検	8
着る・脱ぐ	10
基本使用方法	11
2WAYインフレーター	12
タンクからはずす	13
洗う・乾かす	13
保管と定期点検・アフターサービス	14
故障?と思ったら	15

必ずお読みください

使用目的

本製品は、レジャーダイビングにおける使用を前提とした潜水器材です。
レギュレーターとの接続によりその使用が可能となり、レジャーダイビング時における、
「中性浮力の調整」をおこなう浮力調整装置です。

安全上のご注意

B. C. を安全にご使用いただくためには、正しい操作と、定期的な保守・点検が不可欠です。この取扱説明書に指示されている安全に関する注意事項を、よくお読みになってからダイビングを行ってください。

本書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危険や財産への損害を未然に防止するため、いろいろなマークを使用しています。

その表示や、意味は以下の通りです。

⚠ 危険

守らないと、重大な怪我や死亡事故につながる可能性が極めて高い事柄です。

⚠ 警告

守らないと、重大な怪我や死亡事故につながる可能性がある事柄です。

⚠ 注意

守らないと、人が障害を負う危険や物損事故が起きる可能性がある事柄です。

【お知らせ】知っているると便利な操作や解説です。

⚠ 危険

- 本製品を使用する場合は、国際的に認知されている潜水指導団体の講習を受け、Cカードを取得し器材の正しい取扱い方法を身につけた後、または潜水指導団体の指示のもとでご使用ください。人身事故につながる恐れがあります。
- 絶対に一人で潜らず、必ずバディシステムを守るようにしてください。単独潜水は、重大な事故につながる可能性があり大変危険です。
- 本製品をご利用になる前に、必ず本書により、取り扱い方法、および警告や注意事項をすべて理解してください。また、海洋で本格的に使用する前に、使い方を理解してからご使用ください。
- 本製品を、レジャーダイビング以外の目的で使用しないでください。特に、救命具や浮輪等として使用しないでください。空気が抜けることがあり、溺れる原因となります。
- 本製品に異常が見受けられた場合、速やかに使用を中止し、お買い上げ店もしくは弊社商品販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- スクーバダイビングを行う際には、必ず良好な健康状態で行なってください。少しでも体調に不安を感じた場合には、絶対に無理は避けダイビングを中止してください。
- スクーバダイビングを行なう前にはアルコール類の摂取や、薬品類の服用は避け、体調の悪い方や持病のある方は必ず事前に医師の診断をお受ください。
- 本製品は、一般の健康で平均的体力を持った人を基準に設計しています。個々のダイバーはそれぞれ自分にあった安全なダイビング計画の作成と遂行を行なってください。
- サイドポケットにウエイトを入れないうでください。ポケットの故障の原因になるだけでなく、緊急時にウエイトを取り外すことが難しくなり人身事故につながる恐れがあります。
- 潜水する前に必ず、フロートから空気を完全に抜いた状態で水面での中性浮力が確保できるように、ウエイトの調整を行ってください。潜水落下による人身事故につながる恐れがあります。
- ホースを折ったり引っ張ったりしないでください。壊れるばかりでなく人身事故につながる危険性があります。
- リフティングバックの代用含め給気する空気の浮力を利用して浮上する使い方はしないでください。急激な浮上により潜水病になる可能性があります。
- エアセルに空気を入れた状態で2m以上の高い所から飛び込まないでください。大きな浮力が急激にかかり、B. C. が壊れるだけでなく怪我をすることがあります。

必ずお読みください

▲ 注意

- ガソリン等の溶剤類、化粧品等のスプレー液やクリーナー液、接着剤及び塗料、酸やアルカリなどが付着すると、変質することがあります。これらが本体およびホースに付着しないよう十分注意してください。
- 体型にあったサイズのB、Cをご使用ください。水中でのバランスが悪くなるなど、性能面の低下を招きます。
- 通常の使用状態でのショックには十分耐えますが、落としたり、強くぶついたりすると故障の原因になります。
- 素肌への着用などの際、皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。万一、かぶれた場合には、そのB、Cの着用をやめ、皮膚科の専門医にご相談ください。
- 改造は、安全上問題となることがあります。改造はしないでください。改造によるトラブルに関しては、責任を負いかねます。

各部のなまえ

組み立て時

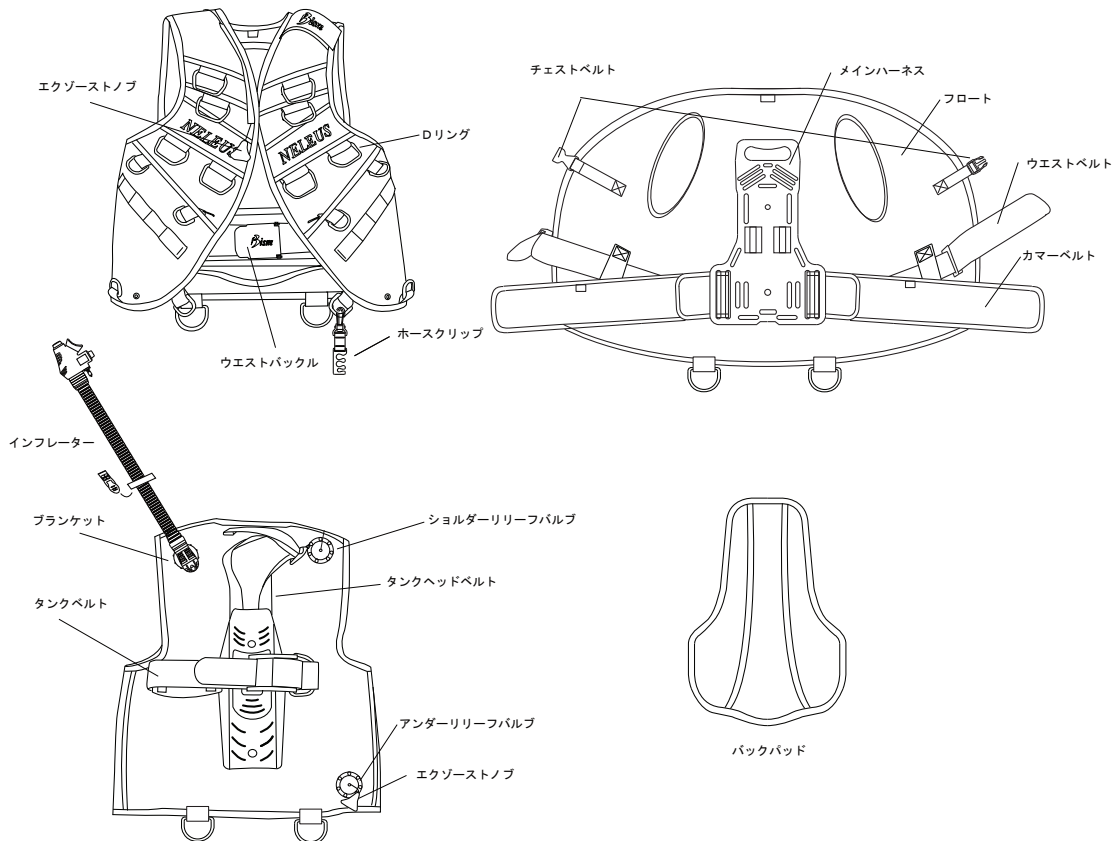
■ J X 3 9 1 1 J



各部のなまえ

バックル解放時・背面他

■ J X 3 9 2 1 J



インフレーター

■コンビネーションバルブⅡ



■スタンダードバルブ

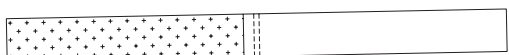


付属品

本製品をお使いになる前にお確かめください。詳しい説明は、()内のページをご覧ください。

■B.C.ホース (1本) ホースガード (1個)
レギュレーターファーストステージに取り付けます。
(5 ページ)

■バックルメス (1個) ジャバラベルト (1本)
コンビネーションバルブをバックポジションで使用するとき装着。(12 ページ)



■保証書 (1部)
■取扱説明書 (1部)

主な機能・特徴

特徴

- カマーベルト長さ調整機構 (6 ページ)
- ウエスト部のカマーベルトの長さ調整ができます。
- 簡単な排気操作 (8 ページ)
- O U T ボタンによる排気 (パワーデフレーション) ができます。
(コンビネーションバルブⅡのみ)
- O R A L ボタンによる排気ができます。
- インフレーターのリモート部を引くと、左肩のブランケットより排気 (プルダンプデフレーション) できます。(スタンダードバルブのみ)
- ショルダーベルト部のエキゾーストノブを引くと、右肩のリリーフバルブより排気 (クイックデフレーション) できます。

仕様

本体

最大浮力 ; S ; 166N (17kgf), M ; 176N (18kgf),
L ; 205N (21kgf)
重量 ; [JX3911J/JX3921J]
S:3.55kg, M:3.66kg, L:3.78kg
胴周り長さ ; 60 cm ~ 102 cm
ポケット積載重量 ; 5kg 以下 (片側)
使用温度範囲 ; - 5 ~ + 50°C
材質 ; 合成樹脂引布 基布 ; ナイロン 裏面 ; ポリウレタン

ホース部分

材質 ; 内管 ; 塩化ビニル樹脂
外皮 ; 塩化ビニル樹脂 継手金具 ; 銅合金
外径 ; 13 mm
長さ ; 700 mm
継手ネジの呼び ; 3/8-24UNF 最高使用圧力 ; 15 bar
最小曲げ半径 (ホース内側) ; 115 mm
ホースガード ; 標準装備

リリーフバルブ

位置 ; 右肩部に1カ所、右腰部に1カ所
オーバープレッシャー排気作動圧力 ; 0.2 bar 以下
クイックデフレーションに必要な引張り力 ; 9.8 ~ 14.7 N (1 ~ 1.5 kgf)

コンビネーションバルブⅡ

蛇腹ホース長さ ; 550 mm
(ブランケット中心からO R A L ボタン先端までの長さ)
重量 ; 394 g 給気流量 ; 80 リットル/分

スタンダードバルブ

蛇腹ホース長さ ; 540 mm
(ブランケット中心からO R A L ボタン先端までの長さ)
重量 ; 366 g 給気流量 ; 100 リットル/分

フロート破裂防止装置

■リリーフバルブ

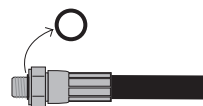
誤って過剰にB . C . のフロートに給気してしまったときに、その破裂を防ぐために、フロート内圧力が一定圧を超えると自動的にリリーフバルブの弁が開き、ブランケットより空気を逃がす構造になっています。

組み立てる

レギュレーターにB . C . ホースを取りつける

▲ 警告

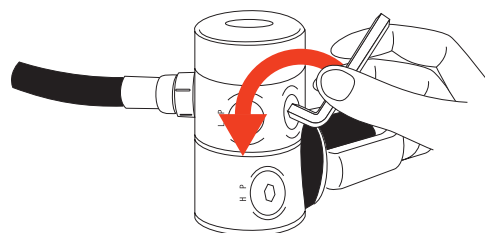
- レギュレーターファーストステージがタンクに接続していない状態で取り付けてください。作業中ファーストステージ内に圧力がかかっていると、ポート蓋が飛ぶなどして危険です。
- レギュレーターは、ファーストステージのL.P. ポートのネジの呼びサイズが3/8-24UNF のものをご使用ください。破損をまねくだけでなく、ホースが抜けるなどして人身事故につながる恐れがあります。
- B . C . ホースの接続ネジ部根元にOリングがセットされていることをご確認ください。Oリングが無い場合エア漏れの原因となります。
- H.P. (ハイ・プレッシャー) ポートに取り付けしないでください。



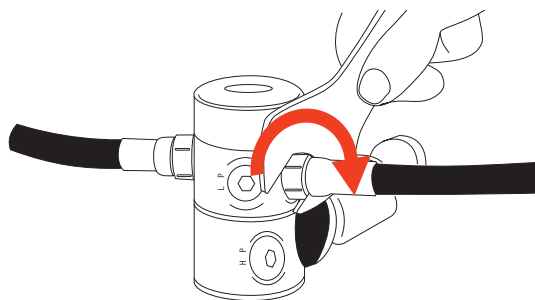
▲ 注意

- B . C . ホース金具部分をスパナで締め付ける際は、9.8N・m (100kgf・cm) の締めトルクを守ってください。ネジを傷める原因となります。
- 他社製ホースガードを取り付けしないでください。

- 1 レギュレーター、ファーストステージのL.P. (ロー・プレッシャー) ポートの蓋を外してください。



- 2 B . C . ホースをL.P. ポートに、スパナで時計方向に回して締め付けてください。締め付けトルクは9.8N・m (100kgf・cm) です。



【お知らせ】

○ご不明の方は、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店へ接続をご依頼ください。

タンクにセットする前に…

B. C. ホースの点検

ホースが破損していないか、折れていないかを点検します。

▲ 警告

- B. C. ホースに異常があったら使用してはいけません。
- B. C. ホースに異常がみられた場合は、ご使用を控えお買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店にご相談ください。

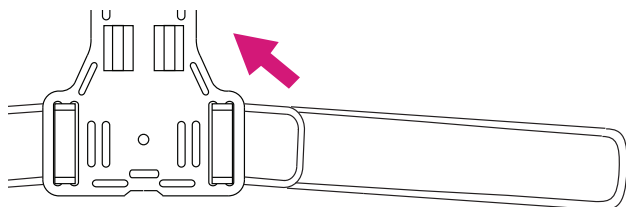
カマーベルト長さを調整する

▲ 注意

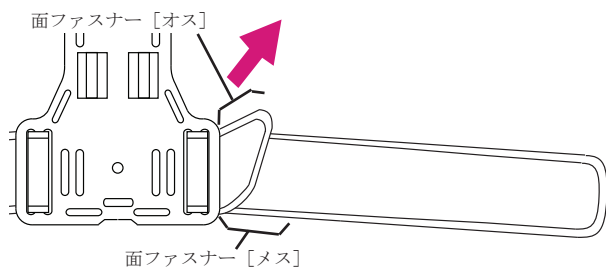
- 実際に着用するスーツを着て長さ調整を行ってください。

□ 短くする

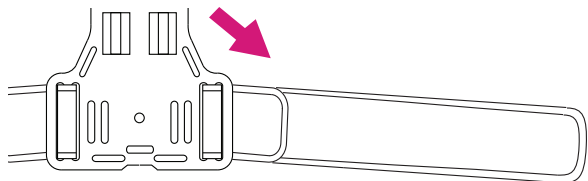
- 1 バックパッドを外します。
- 2 ベルトの面ファスナーをはがします。



- 3 ベルトを短くする分だけ引き出します。この時、引き出しすぎて面ファスナー「オス」が面ファスナー「メス」からはみ出ないように注意してください。



- 4 面ファスナーを表と裏から押さえ付け、貼合わせます。



- 5 バックパッドを取付けます。

□ 長くする

- 1 「短くする」の「1～2」と同様に行い、「3」で長くする方向にベルトを送ります。この時、送り過ぎて面ファスナー「オス」がハーネスのスリットの中に入らないよう注意して下さい。
- 2 「4」と同様に、面ファスナーを貼合わせ、「5」と同様に、バックパッドを取付けます。

【お知らせ】

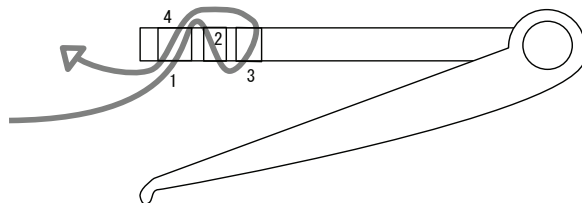
- 着用するスーツの種類により、ウエスト寸法は大きく変化します。着用するダイビングスーツを変えた場合は、必ず長さ調整をやり直してください。
- カマーベルトは左右に一つずつあります。両方の長さを調整してください。

ウエストベルトの長さを調整する

▲ 注意

- 実際に着用するスーツを着て長さ調整を行ってください。

ベルト通し図



- 1 ウエストバックルからウエストベルトを4～2の位置まで外します。1の部分にはウエストベルトを通しておきます。
- 2 ウエストベルトを短くするときは、ウエストバックルを、BC側にスライドさせます。長くするときは、ウエストベルト先端側にウエストバックルをスライドさせます。
- 3 長さが決まったら、ベルト通し図に従いベルトを通します。
- 4 ウエストベルトと、ウエストバックルの隙間がなくなるまでウエストベルトを引っ張ります。

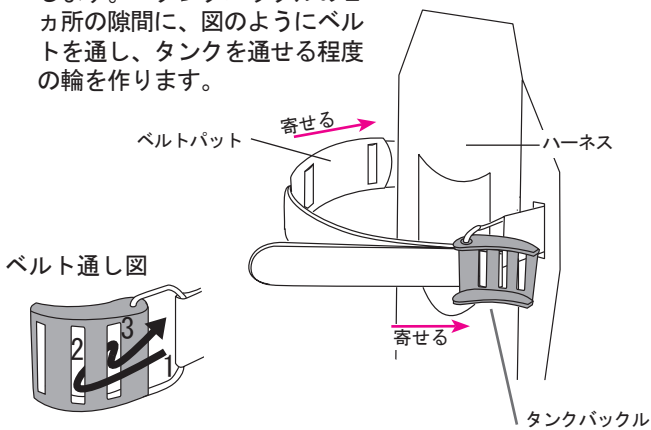
タンクへのセッティング

B . C . をタンクに取り付ける

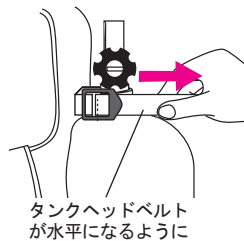
▲警告

●取り付けの際、タンクは平らな地面など安定した場所に置いて下さい。倒れるなどして危険です。

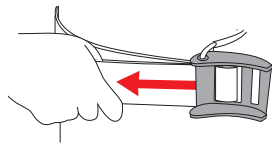
- 1 タンクバックルとベルトパットの位置がハーネス側に近くなるように、左右にベルト上をずらしします。タンクバックルの2カ所の隙間に、図のようにベルトを通し、タンクを通せる程度の輪を作ります。



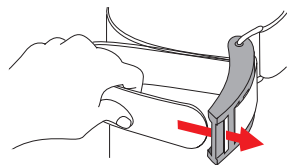
- 2 タンク上部からタンクベルトの輪をおし、タンクバルブの空気出口側が着用時背中側を向くように、タンクの向きをあわせませます。さらにタンクヘッドベルトを、水平の状態ですタンクバルブの下部分でとめられるようにB . C . の取付け高さをあわせ、締め付けます。このときタンクヘッドベルトをきつく締め過ぎないように注意してください。



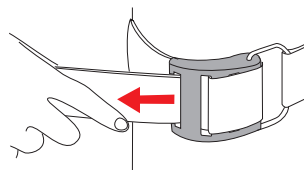
- 3 タンクバックルを図の向きにした状態でベルト先端部を引き、タンクを締め付けます。



- 4 ベルトの先端を引っ張りタンクバックルを倒します。ベルトの先端はベルト上のマジックバンドに張り合わせます。



- 5 タンクベルトを持ち上下に動かしズレないか確認します。ズレってしまった場合は、始めからやり直してください。(はずし方は13ページ参照)



【お知らせ】

○レギュレーターのファーストステージをセットする前に、B . C . をタンクにセットします。

B . C . ホースの接続

B . C . ホースを接続する

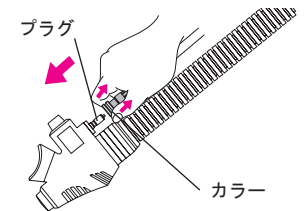
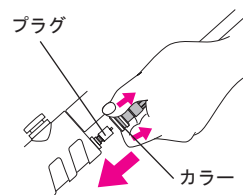
▲警告

●B . C . ホース接続の作業を行うときはタンクバルブを閉じレギュレーターのパージボタンを押してホース内の圧縮された空気を抜いてください。

- 1 レギュレーターファーストステージをレギュレーターの取扱説明書にしたがって、タンクバルブにセットします。
- 2 B . C . ホース先端のカプラーのカラーを引きながら、プラグに軽く差し込みます。

■JX3911
(コンビネーションバルブ)

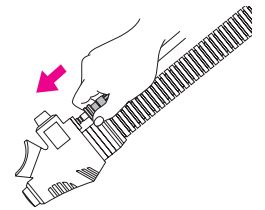
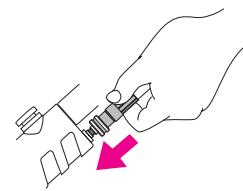
■JX3921
(スタンダードバルブ)



- 3 カプラー根元に持ちかえ、“カチッ”と音がするまで押し込みます。

■JX3911
(コンビネーションバルブ)

■JX3921
(スタンダードバルブ)



- 4 カプラー根元を持ち、引っ張り、抜けないか確認してください。抜けてしまった場合は、始めからやり直してください。

B . C . ホースの接続

給・排気基本操作と作動点検

B . C . ホースの接続部をチェックする

▲ 警告

- 接続部からエア漏れがあったら、使用してはいけません。
- 接続部からエア漏れが止まらないときは、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店までご相談ください。

タンクのバルブを、レギュレーター・ゲージの取扱説明書にしたがって開きます。接続部に指をあてて、エアが漏れていないか確認します。また、空気の漏れる音がしていないか確認します。

漏れていたらバルブを閉じ、レギュレーターセカンドステージのパージボタンを押すなどして、ホース内の圧力がかかっていない状態にしてから、もう一度カプラーを付け直し再度チェックします。

□B . C . ホースをはずす

▲ 警告

- B . C . ホースをインフレーターからはずす前に、必ずタンクバルブを閉じ、レギュレーターのパージボタンを押してホース内の圧縮された空気を抜いてください。

1 タンクバルブを締め、レギュレーターセカンドステージのパージボタンを押し、ホース内の空気を抜きます。

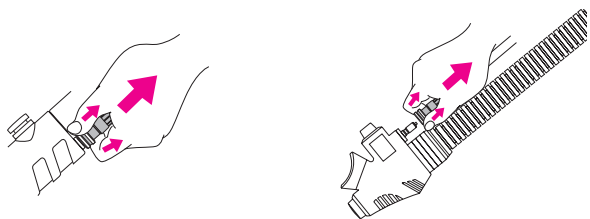
2 B Cホース先端のカプラーのカラーを引き、引いたままの状態、プラグより抜きとります。

■ J X 3 9 1 1

(コンビネーションバルブ)

■ J X 3 9 2 1

(スタンダードバルブ)



インフレーター給・排気操作と作動点検

▲ 警告

- インフレーターの IN ボタンによる給気（パワーインフレーション）は、インフレーターが正しくセットアップされ、かつタンク内にエアがある場合のみ行われます。エアが十分でない場合は給気されません。
- インフレーター部分に強い衝撃を与えないでください。破損の原因となり動作不良を引き起こします。
- 下記点検において異常がみられた場合は、使用を中止し、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店にご相談ください。

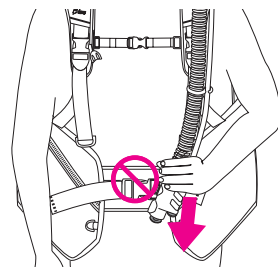
▲ 注意

- ダイビング中、B . C . のフロート内に空気が入っていない状態で排気操作を続けしないでください。B . C . フロート内に多量の水が入ることがあります。

□作動点検 (JX3911 コンビネーションバルブの場合)

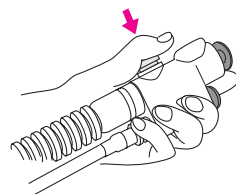
▲ 警告

- O U T ボタンによる排気は、インフレーターが正しくセットアップされ、かつタンク内にエアがある場合のみ操作ができます。エアがない場合は作動しません。
- コンビネーションバルブを引っぱらないで下さい。破損の原因となり、エア漏れ、動作不良を引き起こします。

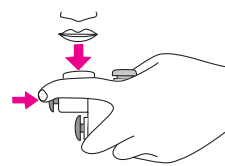


■給気操作

- 1 [パワーインフレーション]
IN ボタンを押すと、フロート内に給気されます。押しの間だけフロート内に空気が入るか確認します。

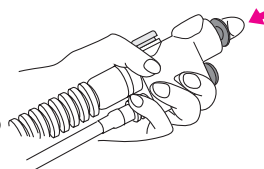


- 2 [オーラルインフレーション]
インフレーターのマウスピースをしっかりとくわえ、息を吹き込む時だけ O R A L ボタンを押すとフロート内に空気が入ります。確実に給気されるか確認します。

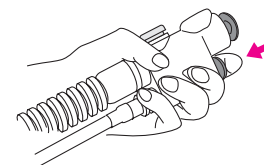


■排気操作

- 1 [O R A L ボタンによるデフレーション]
O R A L ボタンを押すとインフレーター内の弁が解放され、フロート内の空気がマウスピース部より抜けます。フロート内に空気を八分程度入れ、O R A L ボタンを押している間だけ排気されるか確認します。



- 2 [パワーデフレーション]
O U T ボタンを押すと左肩のブランケット内の弁が解放され、フロート内の空気が抜けます。フロート内に空気を八分程度入れ、押しの間だけ排気されるか確認します。



給・排気基本操作と作動点検

インフレーター給・排気操作と作動点検

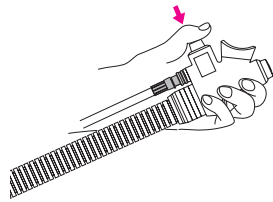
【お知らせ】

- O U T ボタンによる排気（パワーデフレーション）を行うと、O U T ボタンの付け根から少量のエアが排出されますが故障ではありません。
- 水中での排気操作については、11 ページに記載されています。

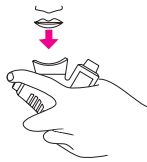
□作動点検（JX3921 スタンダードバルブの場合）

■給気操作

- 1 [パワーインフレーション]
IN ボタンを押すと、フロート内に給気されます。押している間だけフロート内に空気が入るか確認します。

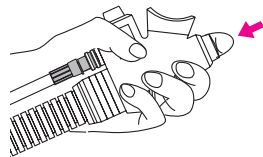


- 2 [オーラルインフレーション]
インフレーターのマウスピースをしっかりくわえ、息を吹き込む時だけ O R A L ボタンを押すとフロート内に空気が入ります。確実に給気されるか確認します。

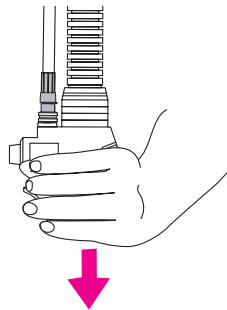


■排気操作

- 1 [O R A L ボタンによるデフレーション]
O R A L ボタンを押すとインフレーター内の弁が解放され、フロート内の空気がマウスピース部より抜けます。フロート内に空気を八分程度入れ、O R A L ボタンを押している間だけ排気されるか確認します。



- 2 [プルダンブデフレーション]
インフレーター本体を下方方向に引くと、肩のブランケット内の弁が解放されて、フロート内の空気を八分目程度入れ引いている間だけ排気されるか確認します。



【お知らせ】

- 水中での排気操作については、11 ページに記載されています。

リリースバルブ排気操作と作動点検

▲ 警告

- 異常があったら使用してはいけません。
- 下記点検において異常がみられた場合は、使用を控え、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店にお持ち込みご相談ください。

▲ 注意

- リリースバルブによる排気の際、エクゾーストノブを強く引っ張りすぎると破損の原因となります。弁が動く程度の力で十分です。ご使用前に力の程度を確認しておいてください。

□外観の点検

ショルダー・アンダーの各エクゾーストノブの紐が、切れかかっていないか確認します。

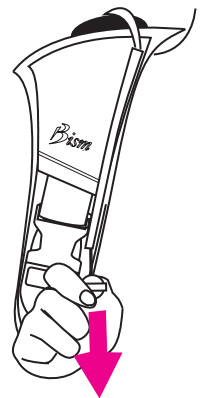
□作動点検

■オーバープレッシャー時の排気動作

- 1 IN ボタンを押してフロートを膨らませます。
- 2 さらに IN ボタンを押し続け、自動的にリリースバルブから空気が排出されることを確認します。

■ショルダーリリースバルブによる排気操作 [クイックデフレーション]

エクゾーストノブを下方方向に引くと、引いている間だけ肩の弁が解放され、フロート内の空気が右肩リリースバルブより抜けます。フロート内に空気を八分程度入れ、エクゾーストノブを引いている間だけ、排気されるか確認します。



■アンダーリリースバルブによる排気操作 [クイックデフレーション]

エクゾーストノブを下方方向に引くと、引いている間だけ腰の弁が解放され、フロート内の空気が右腰リリースバルブより抜けます。フロート内に空気を八分程度入れ、エクゾーストノブを引いている間だけ、排気されるか確認します。

【お知らせ】

- リリースバルブには、フロート内に空気を入れすぎた時にフロートの破裂を防ぐために、フロート内部の圧力が一定のレベルを超えると自動的にエアを排出する役割があります。
- 水中での排気操作については、11 ページに記載されています。

着る・脱ぐ (ウエストバックルの使い方)

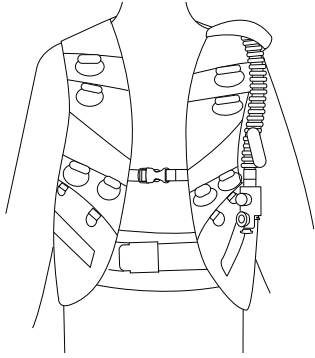
実際に着る前に、各種バックルの使い方を身につけましょう。

警告

- 水中では、ウエストの各バックルをはずさないでください。人身事故につながる恐れがあります。

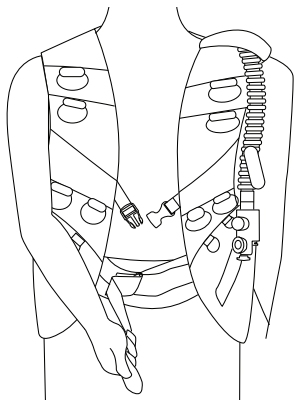
ウエストバックルの使い方

■正しい装着状態



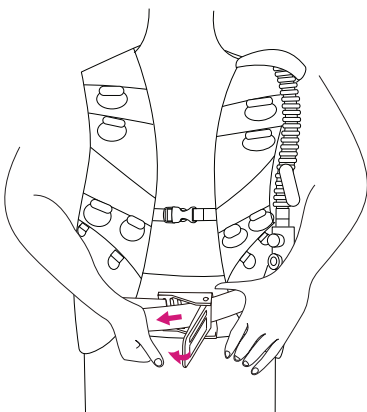
□バックルを、はずす

図のように、ベルトを手前に引っ張ると、バックルがはずれます。



□バックルを、とめる。

図のように、ウエストベルトを引っ張り、バックルでベルトを挟み込むと止まります。



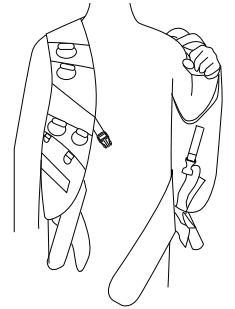
警告

- B、Cの着用は、着用を手伝うバディ以外に近くに人がいないところで行ってください。タンクなどがぶつかるなどして人身事故につながる恐れがあります。

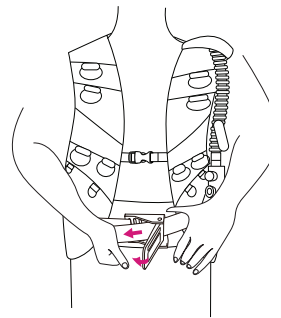
B、Cを背負う

- 1 ウエストベルトは、バックルをはずし、カマーベルトもはがし、ベルトもゆるめた状態にしておきます。またホース類からまぬように、タンク側によけておきます。

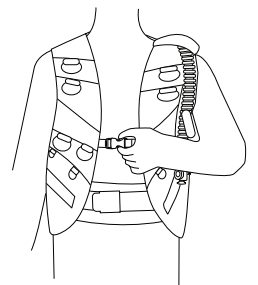
- 2 左右の袖をとおし、背負います。



- 3 カマーバンドを張り合わせウエストのバックルをとめます。



- 4 バックルのオス側をバックルのメス側に強く押し込むと、カチッという音とともに、はまります。

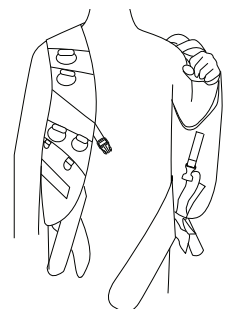


- 5 ベルトの緩みをなくします。

B、Cを脱ぐ

- 1 チェストベルトのバックル、ウエストバックルをはずし、さらにカマーベルトをはがします。

- 2 一方のショルダ一部分を同じ側の手でしっかりと持ちます。もう一方の手で持っていない側から、腕をぬきます。



- 3 一方の手でしっかりとショルダ一部分を持った状態で、タンクを前方にまわしこみ、反対の手でタンクをかかえながら、下に置きます。

基本使用方法

B . C . に空気をいれる

▲ 警告

- 水中では、ORAL ボタンを押しての給気は行わないようにしてください。あやまって水を飲み人身事故につながる恐れがあります。
- インフレーターの IN ボタンによる給気は、タンク内にエアがある場合のみ行われます。エアが十分でない際は給気されません。

【お知らせ】

- B . C . 内に空気をいっぱい入れた状態でさらに給気続けると、フロートの破裂を防ぐためにリリースバルブより空気を逃がす構造になっています。

□ IN ボタンで給気する（水中・水面）

IN ボタンを押すと B . C . 内に空気が入ります。

□ ORAL ボタンで給気する（水面のみ）

浮力をフィンキック等により十分に保った状態で、インフレーターのマウスピースをしっかりとくわえ、息を吹き込む時だけ ORAL ボタンを押して、空気を吹き込みます。

B . C . の空気を抜く

■ J X 3 9 1 1

(コンビネーションバルブ)

▲ 警告

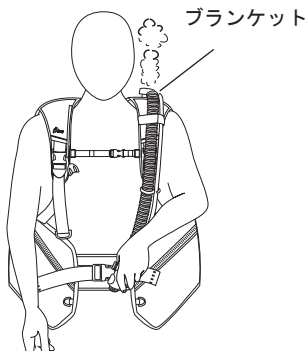
- B . C . ホースが正しくセットされていない、タンクバルブがしまっている、タンク内の圧力が十分でないなど使用に際し正常にセットアップされていないときは、OUT ボタンによる排気はできません。

【お知らせ】

- OUT ボタンによる排気は、B . C . 中圧ホースが正しくセットされ、タンクバルブが開いた状態のときのみ可能です。

□ OUT ボタンで排気する

左肩のブランケットの位置が、フロートにおいてもっとも上となる体勢（直立姿勢など）をとり、手で OUT ボタンを押すとブランケットより空気が抜けます。



■ J X 3 9 2 1

(スタンダードバルブ)

▲ 警告

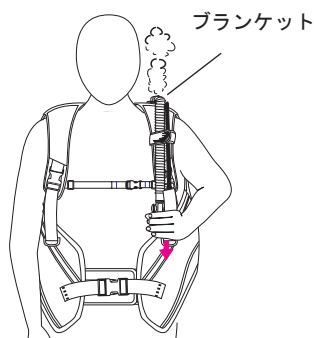
- インフレーターを下方に引いての排気（プルダンプデフレーション）の際、強く引っ張りすぎると、破損および動作不良の原因となり排気ができないことがあります。

【お知らせ】

- インフレーターを下方に引いての排気は、レギュレーターがタンクに取付されていない状態でも可能です。

□ プルダンプで排気する

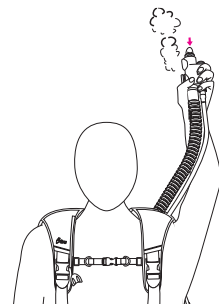
左肩のブランケットの位置が、フロートにおいてもっとも上となる体勢（直立姿勢など）をとり、リモート部を引くことにより左肩のブランケットより、空気が抜けます。



■ 共通

□ ORAL ボタンで排気する

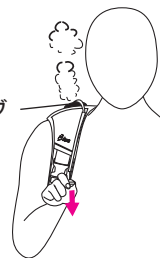
左肩のブランケットの位置が、フロートにおいてもっとも上となる体勢（直立姿勢など）をとり、さらにインフレーターを水面方向に上げながら ORAL ボタンを押すと、インフレーターマウスピース部より空気が抜けます。



□ エクゾーストノブで排気する

● ショルダーリリースバルブの場合

右肩のリリースバルブの位置が、フロートにおいてもっとも上となる体勢（直立姿勢）をとり、エクゾーストノブを引くと、右肩のリリースバルブより空気が抜けます。



● アンダーリリースバルブの場合

右腰のリリースバルブの位置が、フロートにおいてもっとも上となる体勢（ヘッドファーストの際など）をとり、エクゾーストノブを引くと、右腰のリリースバルブより空気が抜けます。

2WAY インフレーター

インフレーターを背中からまわす

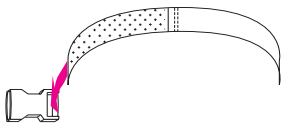
▲ 警告

- インフレーターを背中からまわして使用する時は蛇腹ホース をフロートの背中側に固定しないで下さい。
ORALボタンによる給気が困難になり人身事故につながる恐れがあります。

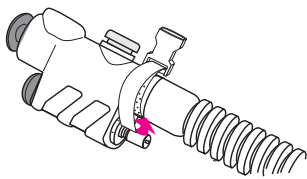
【お知らせ】

- インフレーターを背中からまわして装着することにより左胸元に蛇腹ホースが無い、すっきりとした状態にすることができます。

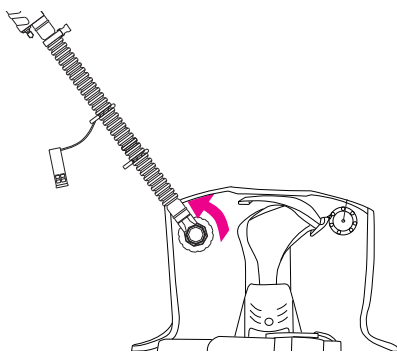
- 1 付属部品のバックルメスにジャバラベルトを通します。



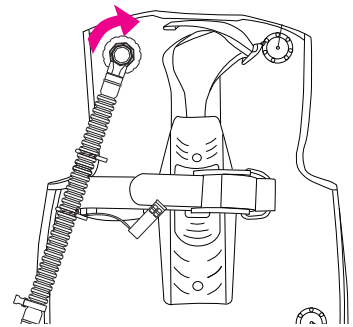
- 2 ジャバラベルトをコンビネーションバルブの手元の操作部に寄せて取り付け、面テープをジャバラベルトが動かないように貼り合わせます。



- 3 ブランケットのネジを緩めてコンビネーションバルブを取り外します。



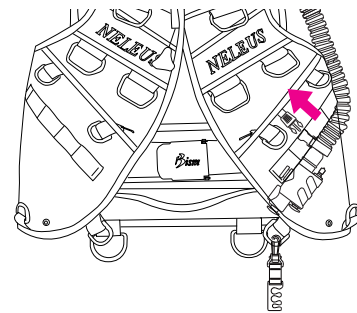
- 4 コンビネーションバルブを下向きにして、ブランケットの12角形になっている凸部と凹部の角を合わせてねじ込みます。



▲ 警告

- ブランケットの12角形の凹凸を確実に合わせて奥までねじ込んで下さい。
12角形がずれているとエア漏れの原因になります。
ねじ込みが足りないとブランケットが外れ、人身事故につながる恐れがあります。

- 5 コンビネーションバルブに取りつけたバックルメスをカチッと音がするまで押し込み、確実にはめ込みます。



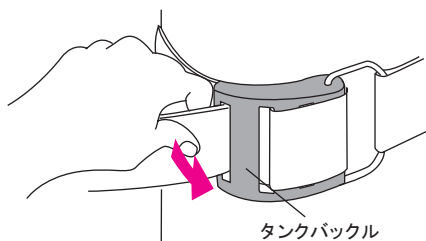
タンクからはずす

タンクからはずし方

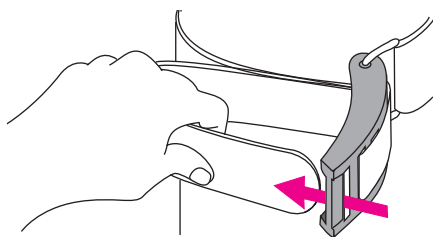
▲ 警告

●タンクからB・C.をはずす際は、タンクを平らな地面など安定した場所に置いてください。倒れるなどして危険です。

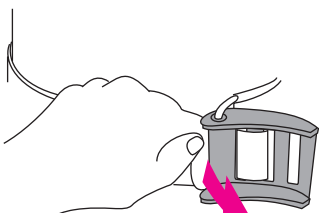
- 1 タンクバルブを締め、レギュレーターセカンドステージのパーズボタンを押すなどして、ホース内に圧力がかかっていないようにしてから、B・C.ホースをプラグより外します。(7ページ参照)
- 2 レギュレーターファーストステージをタンクからはずします。
- 3 タンクベルト先端部を、マジックバンドからはがしとり、タンクバックルを立てます。



- 4 タンクバックルの穴より、ベルトを抜き取ります。



- 5 タンクバックル付け根を矢印の方向にずらすと、ベルトがゆるみます。



- 6 タンクヘッドベルトのマジックバンドをはがします。

- 7 タンクベルトの輪をゆるめ、タンク上部からB・C.を抜き取りはずします。

【お知らせ】

●B・C.からはずした後もタンクバックルからベルトを抜き取らない状態にしておくと、次回のセッティングの際に容易です。

洗う・乾かす

外側を洗う

▲ 注意

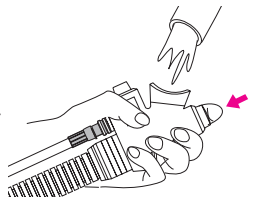
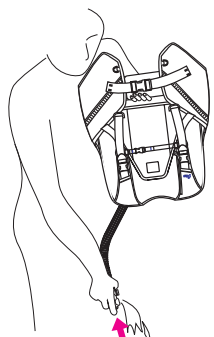
- 50℃以上のお湯に付けると、器材破損の原因となります。
- B・C.は使用后直ちに真水で洗ってください。付着した塩分が、乾燥・結晶化するとバルブの作動不良の原因となります。

- 1 全体を15分程度真水につけた後で、水の中で全体をよくすすぎ塩分をとります。
- 2 各バルブ、インフレーター部分を真水でよく洗い流します。

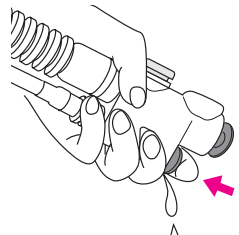
フロート内部を洗う

▲ 注意

- B・C.に空気を入れながら、その圧力を使ってリリーバルブから水を押し出さないでください。破損の原因となります。

- 1 インフレーターのORALボタンを押しながら、マウスピース部分にホース蛇口などを押しあて、フロート内に、真水を1/4程度いれます。
- 2 インフレーターのマウスピースより空気を吹き込み、B・C.を膨らませてから、B・C.を十分にゆずって、フロート内部をすすぎ洗います。
- 3 インフレーターホース付け根のブランク位置が、最も下になるようにもち、さらにインフレーター位置を一番下にして、ORALボタンを押し中の水を空気と一緒に出します。
- 4 「1～4」を2～3回繰り返します。

バルブ内部を洗う (JX3921 コンビネーションバルブ)

- 1 タンクにレギュレーターファーストステージをセットし、B・C.ホースをインフレーターに接続します。
- 2 タンクバルブを開きOUTボタンを4～5回押します。OUTボタン付け根より、バルブ内の水分が排出されます。

乾かす

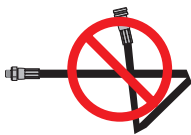
- 1 インフレーターマウスピースより、八分程度空気を吹き込みB・C.を膨らませます。
- 2 直射日光を避け、乾燥した、風通しの良い日陰で、十分に乾燥させます。

保管と定期点検

保管の方法

▲ 注意

- B.C. ホースは、自然な形で保管してください。無理な曲げはホースの折れ等をまねき、寿命を著しく縮めます。
- B.C. は、折りたたまないで保管してください。フロートの寿命を著しく縮めエア漏れの原因となります。



- B.C. の洗浄・乾燥を十分に行います。
- 日があたらない、涼しく、乾燥した、風通しのよい場所に、ハンガーにかけて保管します。

定期点検について

▲ 警告

- 使用の頻度・回数にかかわらず、年に1回、お買い上げ店、もしくは弊社商品取扱販売店に定期点検に出してください。
- 使用の有無にかかわらず、定期点検を怠るとB.C. が正常に機能しないことがあります。

【お知らせ】

- 部品の中には自然劣化するものもあります。定期点検ではこのような部品の交換も行います。
- 年に1回、お買い上げ店もしくは弊社商品取扱販売店に定期点検に出してください。(有償)

保証書について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項を記入し、記載内容をお確かめのください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

- 調子が悪いときはまずチェックを「故障?と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。
- それでも具合の悪いときはサービスへお買い上げ店、または弊社商品取扱販売店にご相談ください。
- 保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
- 保証期間経過後の修理は修理により機能が維持できる場合は、ご要望により有償修理させていただきます。
- 部品の保有期間について弊社ではB.C. ジャケットの交換可能なパーツにつきましては製品の生産終了後8年間保有しており、その間の可能な修理に関しては原則的にお受けしています。この部品保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店、もしくは弊社商品取扱販売店にご相談ください。

故障?と思ったら

トラブル内容	主な原因	処置	参照ページ
着たときにフィットしない。	○ウエスト部のカマーベルトの長さがあていない。	○カマーベルトを調整してください。	6
B . C . がタンクへしっかり固定できない。	○バックルへの通し方が、間違っている。	○ベルトをタンクバックルに正確に通し、固定します。	7
IN ボタンを押しても膨らまない。(給気されない)	○B . C . ホースが正しく接続されていない。 ○タンクバルブが開いていない。 ○タンクにエアーが十分入っていない。 ○プルダンプバルブが開いている。 ○排気ボタンを同時に押している。 ○リリーフバルブが開いている。	○B . C . ホースを接続してください。 ○タンクのバルブを開けてください。 ○エアーが十分に充填されているタンクにセットしなおしてください。 ○リモートバルブを引かないでください。 ○排気ボタンを押さないでください。 ○エクゾーストノブを引かないでください。	7 — — 11 — —
オーラルインフレーションをしても膨らまない。(給気しない)	○リリーフバルブが開いている。 ○プルダンプバルブが開いている。 ○空気を吹き込む以外の時に、ORAL ボタンを押している。	○エクゾーストノブを引かないでください。 ○リモートバルブを引かないでください。 ○空気を吹き込む時だけ、ORAL ボタンを押してください。(潜水指導団体の講習を参照)	— 11 8
ORAL ボタンによる、排気ができない。	○姿勢が適当でない。	○排気口がフロート部よりも高くなる姿勢をとりながら、ボタン操作を行ってください。(潜水指導団体の講習を参照)	11
エクゾーストノブを引いても排気しない。	○姿勢が適当でない。	○リリーフバルブのブランケットの位置がフロートにおいて最も高くなる姿勢をとり操作を行ってください。	11
リリーフバルブから空気が漏れる。	○フロート内圧が一定値を超えている。 ○リリーフバルブに異物がはさまっている。	○ジャケットの破損を防ぐため内圧が上がりすぎると空気が漏れる構造になっています。 ○バルブをよく水洗いしてください。	— —
インフレーターのマウスピース部から空気が漏れる。	○オーラルバルブに異物がはさまっている。	○インフレーター内をよく水洗いしてください。	13
インフレーターの肩部ブランケットから空気が漏れる。	○排気バルブに異物がはさまっている。	○ブランケット部をよく水洗いしてください。	—
B . C . ホースがインフレーターに接続できない。	○B . C . ホース内に圧力がかかっている。 ○弊社製品以外のB . C . ホースを使用しているため接続部のサイズがあわない。	○タンクのバルブを閉じ、レギュレーターのパージボタンを押すなどしてホース内の空気を抜いてください。 ○付属のB . C . ホースをご使用ください。	7 —
B . C が異常に重い。	○フロート内部に水が入っている。	○フロート内部の水を、排出します。	13
浮力が足りない。	○ウエイトが重すぎる。	○適正なウエイト量に調整してください。	—
OUT ボタンを押しても排気しない	○B . C . ホースが正しく接続されていない。 ○タンクバルブが開いていない。 ○タンクにエアーが十分に入っていない。 ○姿勢が適当ではない。	○B . C . ホースを接続してください。 ○タンクのバルブを開けてください。 ○エアーが十分に充填されているタンクにセットしなおしてください。 ○左肩のブランケットの位置がフロートにおいて、もっとも高くなる姿勢をとってください。	—

